

「恥ずかしい」と、違和感を放置していませんか？

高温多湿な時期に多い婦人科感染症

「下腹部にかゆみや痛みがある」「おりものの匂いや色が気になる」

そんな症状にお悩みではありませんか？

高温多湿の夏～秋口は、婦人科系の感染症が増える季節です。

さらに、夏バテで体力や免疫力が落ちてしまうと悪化しやすくなります。

婦人科系の感染症は「恥ずかしい」と受診をためらいがちですが、実は、**多くの女性が経験する身近な悩みです。**

早期に治療すれば比較的早く治るケースがほとんどですので、自己判断で市販薬を使用せず、医師の診断を受けることが大切です。



特に注意したい感染症

1.カンジダ膣炎

原因

免疫低下、抗生物質の使用、糖尿病、特に糖を尿にだす薬(SGLT2阻害薬)内服中などによって常在菌「カンジダ菌」が増殖することで発症。下着の中が蒸れやすい夏～秋口は特に注意が必要。

症状

外陰部の強いかゆみ、酒粕状(カッテージチーズ状)の白いおりもの

2.細菌性膣症

原因

蒸れや頻繁な洗浄などにより膣内の善玉菌が減り、悪玉菌が増えることで発症。

症状

おりものの量が増える、魚のような生臭いにおい

3.トリコモナス膣炎

原因

トリコモナス原虫。性感染症に分類されるが、タオルや便器、浴槽などを介して感染することも。

症状

黄色～黄緑色の泡立つおりもの、生臭い悪臭

4.性感染症(STD) ▲無症状が多いので要注意

●クラミジア

最も多い性感染症のひとつ。黄色いおりものが増え、下腹部痛や発熱を伴うことも。女性の7割は無症状で、放置すると不妊症や子宮外妊娠の原因になることもある。

●淋菌感染症(淋病)

黄色や黄緑色の膿状のおりものが増える。下腹部痛や発熱を伴うことも。

●性器ヘルペス

再発を繰り返すウイルス感染症。性器とその周辺に、米粒大の水ぶくれ(水泡)ができ、破れると強い痛みが生じる。初感染の場合は、発熱を伴い、痛みで排尿できないほどの症状が出る。

予防と対策

☑ 通気性のよい下着を着用する

綿など通気性の良い素材・締め付けの少ないものを選びましょう。

☑ 濡れた衣類や水着は早めに着替える

水泳やシャワーの後は、デリケートゾーンをしっかりと乾かすことが大切です。

☑ デリケートゾーンの過度な洗浄を避ける

石鹸などで強く洗いすぎると、かえって常在菌のバランスを崩す原因になります。

☑ 免疫力を高める

睡眠を十分にとり、バランスの取れた食事を心がけましょう。

☑ おかしいと思ったらすぐに受診する

おりものの量や色、においに異常を感じたり、かゆみや痛みがある場合は、早めに婦人科を受診することが重要です。

